

同志社大学経済学部 2014 年度秋学期特別講義「企業分析」

2015 年 1月 9日 「ツーリズムと航空産業」 講師名 千島良樹

“ 若者はなぜ旅に出なくなったか？ ”

学生のベスト・コメント

受講者57名（複数回答）から多様なコメント 主要なものを整理すると

・内向的な若者が増えた	20名（35%）
・旅の魅力が相対的に減った （インターネット普及で必要情報は容易に入手可能に）	20（35%）
・金銭面、お金がない、支払う金額以上の価値を見出せない	16（28%）
・言葉の壁	6（11%）
・危険（テロに巻き込まれる、エボラ出血熱、SARS流行等）	3（5%）

代表的コメント

[回答46] “ネット世界中の情報が入手出来、ネットを通じ世界を身近に感じる なので実際にこの目で見たい、この手で触れてみたい、という気持ちが希薄に”

[回答41] “今の環境に満足し、（あえて）この環境を変えたいと思わない”

[回答 5] ” 若者に内向き主義（消極的で何事にも興味、関心を持たない）が増加した 旅より自宅でネット、SNSをする方が良い”

辛口コメント

[回答53] “（若者が）自信がなく、今の状況を越えようとしなない 成長しない自分に満足している消極的な性格が旅を拒否している 自分に自信をもち、上昇志向が強くなければ旅には出ない”

[回答36] “以前と比べ、若者の積極性が乏しくなった 草食系男子に代表されるように、男の積極性が失われてきている”

[回答47] “日本人の国民性が関係している グローバルな視点から日本人は積極性に欠けると言われ、単独行動よりも複数人での行動を好む 一人で異なるコミュニティに自分を置くことを避ける 語学面でハンディあり、異文化・民族とのコミュニケーション能力が低い”

講師からのコメント

各人各様に意見があり、置かれた時代環境にも顕著な違いがあります。以下に（少し長くなりますが）私のコメントを

私は終戦の翌年に生まれました。　今も記憶していること、敗戦し、すべてを失った日本人の生活は貧しく苦しかった。　でも“一生懸命生きていけば、きっと今日より明日の生活が良くなる”、と信じた人々と子供達、その表情は決して暗くなかった。

1950年～53年朝鮮戦争（動乱）勃発、その特需が契機となり、日本経済は成長への足掛かりを掴んだ。

1964年、海外渡航自由化、東海道新幹線開業、東京オリンピック開催とやがて世界を瞠目させる日本経済の高度成長の大きな一步を刻む年になる。

戦後生まれのベビーブーマー（団塊の世代）はこの時期多感な10代～20代に差し掛かり、多くの若者が上限一杯の500米ドルを懐に海外を目指した。日本の「経済成長」が日本の「若者の人間修行の旅」を後押しした。

そして2015年、戦後70年が経過した。　貧しかった日本は今や豊かで成熟した国家へと変貌した。　新しい日本、平和な国に生まれ育ってきた若者は、いながらにして国内外の最新情報を入手し、世界を知る。

21世紀、海外への旅は若者にとってその魅力と魔力を失ったのか？  
私たち団塊の世代は、そういう若者に何を伝えればいいのか？

“見る、知る”はOne Way、“語り合う、Communicate”はBoth Way、“この差は大きい”と感ずることの出来る人、賛同する人には“旅に出る”資格と価値がある。ならば“留学”も選択肢に入れてみたらどうだろう。

単一民族が住む島国、そこに生まれ育った我々日本人は“日本の常識、世界の非常識”の落とし穴があることを認識しなければならない。　だから、これから社会のリーダー役を目指す若者には「グローバルな視野・視点と思考」が不可欠だ。

それには日本人とだけでなく、異文化と異民族、その生活、習慣に触れることがとても有益だ。　体力があり、思考が柔軟で、家族に責任のない若いうちに、海外に出ていく、海外で学ぶ、はどうだろう？

「愛国心」について、　「国際的な視野」と「愛国心」は表裏一体である

べき、と思う。 グローバルな視野に裏付けられてこそ、真の愛国心が育まれる。 そして他者、他国の愛国心を寛容出来る。 この寛容心の欠ける愛国心は普遍性と説得力を欠き、独りよがりで危うい。

世界を見、世界と語ろう。 そしてより深く日本の歴史と文化に触れよう。

これが私の旅で学んだことです

以上